

2011年5月2日 ITCN 夜の集会メッセージ

「その一匹の羊こそ」 <天のみ国への入り口>

聖書箇所：マタイによる福音書18：1-6、12-14

- 1：そのとき、弟子たちがイエスの所に来て言った。「それでは、天の御国では、誰が一番偉いのでしょうか。」
- 2：そこで、イエスは小さい子どもを呼び寄せ、彼らの真ん中に立たせて、
- 3：言われた。「まことに、あなたがたに告げます。あなたがたも悔い改めて子どもたちのようにならない限り、決して天の御国には、入れません。
- 4：だから、この子どものように、自分を低くする者が、天の御国で一番偉い人です。
- 5：また、だれでも、このような子どものひとりを、わたしの名のゆえに受け入れる者は、私を受け入れるのです。
- 6：しかし、私を信じるこの小さな者たちのひとりにでもつまずきを与えるような者は、大きい石臼を首にかけられて、湖の深みでおぼれ死んだほうがましです。
- 12：あなたがたはどう思いますか。もしだれかが百匹の羊を持っていて、そのうちの一匹が迷い出たとしたら、その人は九十九匹を山に残して、迷った一匹を捜しに出かけないでしょうか。
- 13：そして、もし、いたとなれば、まことに、あなたがたに告げます。その人は迷わなかった九十九匹の羊以上にこの一匹を喜ぶのです。

3つのポイント：

- (1) 方向転換して主を見上げよ
- (2) イエス様のゆえに子供を受け入れよ
- (3) 自分の中の子供を回復して頂こう

メッセージ骨子：

<序論> 私たちはたとえ歳をとっていても、一人一人の内側には「幼い自分の姿」があります。持って生まれた能力、それを発揮したいという強い思い、子どもの時見た夢など。イエス様は子供を愛されましたが、イエス様の思いや御性質、そして天の御国を知るのに、子どもを観察するのは非常に有効なことかもしれません。

<ポイント1> 「方向転換して主を見上げよ」

天の御国で誰が一番偉いのでしょうかという、弟子たちの質問に対して、イエス様は「悔い改めて子どものようにならない限り天国には入れない」と言われました。天国に入るためには、方向転換する必要があるということです。人の批判に明け暮れている人は、自分の罪に目を留めなさい。自分を見て落ち込んでいる人は主を見上げなさい。他人との比較が気になる人は、神のみ前ではみな平等なのだと言いなさいと、主は言われます。

<ポイント2> 「イエス様のゆえに子供を受け入れよ」

小さな者に躓きを与えてはならないとイエス様は強い口調で言われました。人を見下げる高ぶった心を嫌われたのです。この心の態度は、子供をひとり的人格として扱うことにより初めて可能となります。そしてその子のために背後に祈りを積む、これこそが「イエス様のゆえに子供を受け入れる」ことなのです。

<ポイント3> 「自分の中の子供を回復して頂こう」

イエス様の大切にされた1匹の羊は、単に外なる子どもや弱い人だけでなく、自分の中にいる子供の姿をも指しています。あなたの内にある、本来の子供の姿は健在ですか？行方不明になっていたり、傷つき歪んで、息も絶え絶えになっていることはないですか？イエス様はその一匹を捜し求めるために出てこられました。イエス様は、あなたの内なる子供、本来のあなたを愛しておられます。たとえ出来が悪くても、他の優秀な99匹以上に『本来のあなた』を喜ばれる、そのイエス様の視線を感じた時、あなたは平安に包まれ、自分が好きになり、目の前の子供が大好きになり、隣人を愛せずにおれなくなります。

<まとめ> 天の御国と聞くと死んでからのものと思ってしまうがちですが、そうではありません。子どもを受け入れ、自分の中の子供を回復して頂く時、そこには神を愛し、人を愛し、隣人を愛する天の御国が広がっています。